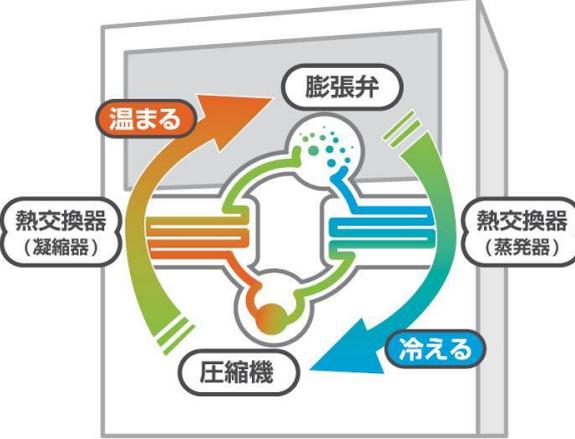


製品名 (告示品名)	缶・ボトル飲料自動販売機 (省エネルギー型自動販売機の種類)	
告示対象条項	低炭素投資促進法告示 2項47号	
条文	省エネ法施行令第21条第17号に掲げる自動販売機のうち、次の表の左欄に掲げる区分ごとに同表の右欄に掲げる基準エネルギー消費効率を、自動販売機の性能の向上に関する製造事業者等の判断の基準等(平成19年経済産業省告示第289号)の3に定める測定方法により測定したエネルギー消費効率で除して得た数値が100分の62以上のものに限る。	
缶・ボトル飲料自動販売機とは	<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <p>缶・ボトル飲料自動販売機は、冷却装置及び／又は加熱装置と倉庫を構成する箱体とを一体とし、貨幣(硬貨又は紙幣)又はその他の決済手段(電子マネー、クレジット、デビットなど)を使用することによって、自動的に缶及びボトル入り飲料を販売する。</p> </div>	
ヒートポンプのしくみ・メリット・特長		<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <p>冷却で発生した熱を外に放出せず、ホット商品を温めるのに再利用する仕組み。</p> </div>
	<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <p>ヒーターの運転率が下がり、消費電力量の低減に寄与 日本の缶・ペットボトル飲料自販機の多くは、1台で冷たい飲み物と温かい飲み物を売ることができる「ホット&コールド」方式になっています。従前は冷却の際に発生する熱を庫内から放出していましたが、最近の缶・ペットボトル飲料自販機はヒート・ポンプ方式を採用し、この熱をホット商品を温めるのに再利用しています。これによりヒーターの運転率が下がり、消費電力量の低減に寄与しています。</p> </div>	

製品名 (告示品名)	缶・ボトル飲料自動販売機 (省エネルギー型自動販売機の一つ)	
種類(例)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(株)クボタ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サンデン(株)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>パナソニック(株)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>富士電機リテイルシステムズ(株)</p> </div> </div>	
関連工業会	一般社団法人 日本自動販売機工業会	
開発メーカー 五十音順	株式会社クボタ サンデン株式会社 パナソニック株式会社 富士電機リテイルシステムズ株式会社	
販売価格帯	・■300万円未満 ・□300～1,000万円 ・□1,000～5,000万円 ・□5,000万円超 ・その他(約 万円)	
適正リース期間	3年～5年	